

三 自然の災害

1 干 害(干ばつ)

香川県は、全国的にも有名な少雨地帯で、年間降水量一二〇〇ミリメートル内外で、水に恵まれません昔から干ばつの被害に悩まされてきた。いまに残る「雨乞い行事」や、各地で語り伝えられる「水利紛争」などこの間の事情を物語っている。

香川県大百科事典によれば、大宝年間(七〇一〜七〇四)の満濃池築造の頃から、藩制時代末期までに、記録に残っているものだけで約一〇〇回の干ばつが発生、収穫が皆無となり多くの餓死者も出ている。明治以降、約一〇〇年間に二二回起こっていると記されている。

(一) 昭和十四年の干ばつ

昭和期に入って最も深刻な惨状を呈した干ばつは、昭和十四年(一九三九)の大干ばつであった。伝聞によると「稲が枯れはじめ、やかんで水をやる(やかん水)ような状態であり、この年は、西日本一帯が干ばつ、中でも香川県は大干ばつとな

り、「知事ら滝宮神社・天満宮に降雨を祈願、市町村に雨乞い
を呼びかけた」と言われている。古老によると、田植ができな
かった水田が多く大豆や小豆、さつまいもの代作に切り替えた
農家が多かったと言う。

この年は、降雨量が極めて少なく、多度津測候所の一月から八
月までの降水量はわずか三八五・一メートルと記録されている。

その後、昭和四十八年（一九七三）には「高松砂漠」と言わ
れるほどの大干ばつがあったが、幸いにも、綾上町では長柄ダ
ムの水源によって救われた。

昭和五十六年（一九八一）には、待望の香川用水の完成によっ
て、小豆島など山間島しょ部を除き干ばつ被害の心配は一応解
決された。

(二) 平成六年の渇水

平成六年（一九九四）は、歴史上まれにみる少雨の年であつ
た。古老の話では、「こんな渇水、水不足は記憶にない」と言
われる渇水であった。

ア 春先からの少雨

渇水の直接の原因は、春先から極端に降水量が少なかった
ことである。例年は、五月～七月に梅雨による降水があり、
八月～十月には台風による雨が期待できる。ところが平成六
年は、雨がなく、全くの空梅雨で、しかも例年より二週間も

表19 平成6年(1994)の夏の気温と降水量
(高松气象台)

項目	値	観測史上等
7月平均気温	29.6℃	1位
7月平均最高気温	34.3℃	1位
7月平均最低気温	25.4℃	1位
8月平均気温	29.6℃	1位
8月平均最高気温	34.4℃	1位
8月平均最低気温	25.1℃	1位
7月熱帯夜	20日	1位
8月熱帯夜	17日	3位
7月真夏日	30日	1位
8月真夏日	31日	1位タイ
7月降水量	58.5 ^{mm}	平年比 45%
8月降水量	26.0 ^{mm}	同 28%
7月日照時間	299.9時間	同 144%
8月日照時間	308.8時間	同 133%

うかがうことができる。

昭和十四年の干ばつに匹敵する、まさしく歴史的な渇水と
酷暑の年であったことを容易に知ることができる。

ウ 「雨乞い」の祈願

酷暑と渇水の中で、町民の生活にも深刻な影響が表れ、町
内の一部の地域では稲や庭木が枯死するようになった。町あ
げでの夏の祭典である「サマーフェスティバル」も中止の止
むなきにいたった。周囲からの要請もあり、綾上・綾南の両
町長・教育長をはじめ、念佛踊組代表者ら二〇名が齋戒沐浴
して白装束に身を包み、滝宮神社に八月六日の夜から翌朝ま

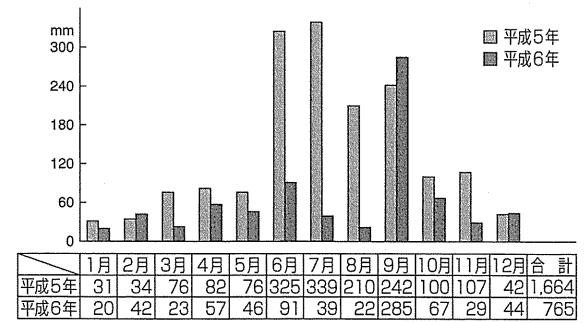


図12 長柄ダムにおける降水量の比較(平成5、6年)

て、平成六年は六一メートル、前年のわずかに一割にすぎな
かった。町民は連日、空を見上げてはため息をつくばかりで
あった。この年がいかに、深刻な渇水の年であったかがうか
がえる。

イ 異常高温と日照

平成六年における高松气象台の記録は、次の通りである。
この記録から、この年がいかに異常な気象状況であったか

で「おこもり」を行い、全員で百巻の祝詞を奏上し、降雨を
祈願した。翌八月七日には、綾上・綾南念佛踊組による「雨
乞い念佛」を奉納して雨の到来を神に祈念した。

この年の夏は、県内の多くの市町が深刻な節水と時間断水
に見舞われたが、綾上町では、時間断水もなく、事態を無事
のりこえることができた。

エ 恵みの雨——台風による降雨

猛暑と異常渇水のため水田への水の供給が日増しに困難と
なり、ついに町では稲作対策として、補助金を出して稲作
水確保のため井戸掘りを奨励した。

この年の七月十六日には、四国の水がめである早浦ダムが
第三次取水制限に入り、貯水率一四・六割、七月二十四日
にはついに〇割となった。香川用水に依存している市町は、完
全断水の瀬戸際をむかえたが、七月二十六日、台風七号の接
近により早浦ダム周辺に二九八メートルの恵みの雨をもたら
し、七月二十八日には貯水率が三一・四割に回復した。さら
に八月十六日には台風十四号、九月三十日には台風二十六号
によって心配された生活用水、水田の用水(穂水)も確保さ
れ、渇水からの危機から脱出できた。

思えば七月はじめ、町渇水対策本部からの節水の呼びか
け、これに呼応し渇水の苦難を乗り切った町民相互の信頼と

表20 水稻旱魃被害状況

地区名	種別	植付不能			収穫皆無		
		戸数	筆数	被害面積	戸数	筆数	被害面積
粉 所	ウルチ	3	3	3,720m ²	9	17	10,470m ²
	モ チ						
山 田	ウルチ	3	6	5,110	43	86	82,330
	モ チ				8	8	5,270
西 分	ウルチ	2	4	3,230	11	16	13,330
	モ チ				3	6	2,000
羽床上	ウルチ	1	1	1,000	5	12	7,730
	モ チ				5	7	3,200
合 計	ウルチ	9	4	13,060	68	131	113,860
	モ チ				16	21	10,470
被害総面積		13,060m ²			124,330m ²		

表21 農作物干害応急対策事業

水 路	7か所
揚水機	95台
さく井	45か所
その他	14か所
(送水管・発電機など)	

掛け流しで配水するところも多かった。

この大渇水は結局、「香川用水」の恩恵によって何とか凌ぐことができ、先人の果たした偉業を、あらためて再認識することになった。

ここで、「香川用水」事業の推移と概略を記しておく。

香川県は、昔から水資源に恵まれず、先人たちは多くのため池を築造するなど用水確保に苦勞を重ねたが、数年ごとに繰り返される干ばつ被害に苦しめられ続けた。また、社会経済の発展に伴って、水の需要がますます増大してきた。香川用水は、この抜本的な解決を図ったものである。

四国の水資源の総合的な開発を目的とした「吉野川総合開発」の一環として計画・施行された事業で、早明浦ダムの建設とそれにより新たに生み出された用水が四国四県に配水され、その一部を香川県に導入する事業である。吉野川中流の池田ダムから讃岐山脈を貫く導水トンネルで香川県に導入し、東西にのびる幹線水路を通り、東かがわ市から豊浜町まで県下一円に配水される。事業は、昭和四十三年（一九六八）に着工し二年半の歳月を費やして昭和五十六年に完成し、現在まで農業・工業・上水道用水として供給されている。

大日照の記録(その一)……応安から文政まで

(『県史』『府史』『蓮井氏記録』より)

- 応安 三(二三七〇) 六月八日より八月十五日にかけて雨降らず、牛馬疫病流行
- 〃 四(二三七二) 五月十四日より七月二十日にかけて雨なし
- 永徳 元(二三八一) 三月下旬より八月下旬にかけて雨なし
- 元中 三(二三八六) 百日も旱魃が続いた
- 〃 七(三三九〇) 大旱魃で、また大風があった
- 応永 十四(二四〇七) 五月十八日より七月十五日にかけて雨なく大飢饉
- 〃 十九(二四二二) 六月・七月旱魃があった
- 〃 二七(二四二〇) 大旱魃があった
- 永享 五(二四三三) 五月より十月にかけて旱魃、牛馬疫病流行
- 〃 六(二四三四) 大旱魃であった
- 長祿 元(二四五七) 諸国とも旱魃 五穀熟さなかった
- 〃 三(二四五九) 天下大旱魃 五穀が実らなかった
- 寛正 元(二四六〇) 旱魃 八月晦大風
- 文明 六(二四七四) 三月十七日雨有って七月十六日迄不降
- 〃 十三(二四八二) 大旱魃
- 〃 十七(二四八五) 夏に旱魃
- 〃 十八(二四八六) 旱魃
- 大日照、疫病、痘瘡大はやり

連帯感の後世に永く語りつぐべきことではないだろうかと思われる。

綾上町のように、ため池等に頼っている山間部では、水不足の多大な影響を受け水稻の枯死等で収穫皆無や作付け不能の被害が発生した(被害の状況は、表20のとおりである)。また、山林では植林し苦勞して育てた多くの杉・檜等の葉が茶褐色になり枯れてしまった。

平成五年は、全国的に低温で雨が多く、日照不足等により、米作が「未曾有の不作」となり米の需給が心配されており、平成六年度は米の安定供給を図るため、転作面積等を緩和し、稲作復帰に向けた推進を行ってきた。

町は、渇水による農作物の旱魃被害を未然に防止し、あるいは被害を最小限にとどめるため、干害応急対策事業(事業総額一億四五〇〇万円)に対する助成を行った(表21参照)。補助率は、町が一五割、綾歌南部農協(現在の香川県農業協同組合綾歌南部)が一〇割である。

水稻の作付け不能及び収穫皆無の農家に対して一〇割当たり二〇〇〇円の補助も行うとともに、種子の確保に対する補助も行い、被害農家の救済に当たった。

香川用水から配水を受けている小池でも、水が不足し、作付け田の五〇割に制限して配水したり、二〜三ヘクタール地割れした田に

第1章 恵まれた自然

四国地方は、台風常襲地帯という気象特性と急峻な地形、もろい地質を併せ持つ極めて災害が発生しやすい地域であると言われている。

- 文亀 元(二五〇一) 大旱魃で飢饉、人々多数餓死
- 〃 三(二五〇三) 大旱魃
- 大永 二(二五二二) 三月より八月まで雨降らず
- 天文 十一(二五四二) 二月旱魃
- 永祿 二(二五五九) 五月十日より八月十九日にかけて旱魃
- 〃 六(二五六三) 四月下旬より八月中旬にかけて大旱魃
- 元龜 二(二五七二) 五月六月不降
- 慶長 九(二六〇四) 三月より七月雨降らず、八月より翌正迄雨降通し也
- 承応 三(二六五四) 大旱して穀登らず、野に餓死あり
- 寛文 八(二六六八) 夏大旱 雨を百々潭に祈る 三日にして雨降る。この時郡監篠原四兵衛・里正河田太左エ門をして潭底を探らしめる。ある所のものは唯材木のみと。
- 天和 三(二六八三) 四月十八日より大日照、不田植多し
- 元禄 十三(二七〇〇) 三月朔雨有て八月三日迄雨降らず 不田植ばかりなり
- 宝永 三(二七〇六) 六月大旱す
- 〃 七(二七二〇) 夏大旱す。雨を百々潭に祈る。
- 享保 三(二七二八) 六月から七月に至まで雨降らず
- 〃 八(二七三三) 三月二十五日雨有て六月下旬迄多無大日照也
- 〃 十六(二八八三) 七月二十一日から九月十七日まで雨なし
- 〃 十九(二八八六) 六月十八日から八月二十七日まで雨なし
- 〃 二十六(二八九三) 六月二十三日から八月十五日まで雨らしい雨なし
- 〃 二十七(二八九四) 春から降雨少なく八月にわか雨程度 前年以上の惨況
- 〃 三十一(二八九二) 諸国干ばつ香川甚だし
- 大正 二(二九一三) 大干ばつ。満濃池証文ユルを抜く
- 昭和 九(二九三四) 干ばつのため八月陸軍が二百発の実弾を発射
- 〃 十四(二九三九) 県下大干ばつで県が市町村に雨ごい祈願執行状を通達
- 〃 十九(二九四四) 干ばつ県下で四千畝が稲作不能
- 〃 三十一(二九五六) 七月、八月干ばつ
- 〃 四十八(二九七三) 都市用水が枯渇
- 2 水 害

- 〃 九(二七二四) 四月十四日雷雨あり、これより六月に至るまで降らず大旱す
- 宝曆 七(二七五七) 夏大旱す
- 〃 十三(二七六三) 四月三日雨降り七月迄雨無し大照也、当村にても惣じて日枯也
- 寛政 二(二七九〇) 大旱す
- 〃 四(二七九二) 五月五日より六月三日まで雨降らずして大日照也
- 文化 三(二八〇六) 大旱す
- 〃 六(二八〇九) この年大旱す
- 〃 七(二八一〇) 三月二十八日雨有て五月末迄雨無し大照也
- 〃 十一(二八一四) 旱損す
- 〃 十四(二八一七) この年夏より秋に至る迄大旱す
- 文政 元(二八一八) 夏より秋に至るまで雨降らず、大いに税租を損ず(以下略)
- 〃 十二(二八二九) 十二月鑄田池堤防修築に着工
- 大日照の記録(その二) ……天保から昭和まで
- 天保 三(二八三二) 六月から七月まで大干ばつ
- 嘉永 六(二八五三) 五月から八月まで大干ばつ
- 明治 九(二八七六) 干天が続き稲作の収穫が皆無の地域目

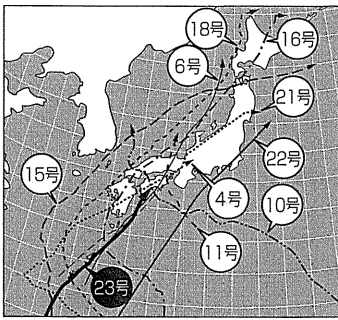


図13 平成16年日本に上陸した台風

こうした中であって、香川県は水害の少ない、少雨地帯で知られている。それでもこの三〇年間には大小の水害がおきている。昭和五十三年(一九七六)には小豆島の内海町、昭和六十二年(一九八七)十月には、季節はずれの大型台風十九号が東讃から讃岐地方を直撃し、特に木田郡三木町では一夜にして四七〇メートルの大雨によって大きな被害に見舞われている。

(一) 平成十六年(二〇〇四)の台風上陸数

平成十六年の台風上陸は一〇個となり、気象庁の統計開始以来の記録を塗り替え、最多の二けたの大台となった。そのうち四国上陸は六個で、年間最多記録を更新した。十月に複数の上陸するのは、二個が上陸した昭和三十年(一九五五)以来四九年ぶりと言われている。

(二) 大型で強い「台風二十三号」の上陸

台風二十三号は、十月二十日午後、高知県土佐清水市付近に上陸、四国を通過し、本州を縦断、二十一日朝には三陸沖に抜けた。香川県内は二十日昼前から東部を中心に

各地の降水量

多度津	二二〇
財田	二八三
滝宮	二七五
竜王山	二八五
高松	二八五
内海	三六七
引田	三九五
観測地	降水量(ミリメートル)

10月19日午前1時～10月20日午後10時 高松地方気象台

激しい風雨に見舞われた。高松地方気象台によると、十九日の降り始めから二十日午後十時までに全観測地点で二〇〇ミリメートルを越す記録的な雨量で、各地の降水量は上の通りであった。

注 県水防本部によると、

土砂災害や河川・ため池の堤防決壊の恐れから、さぬき、東かがわの両市、国分寺町の全世帯をはじめ最大で五市十一町の約五万二千世帯に避難勧告が出され、二十日午後十時には、四九二世帯二六二四人が小学校・公民館などに避難した。

(三) 県内の交通機関——終日まひ

台風二十三号の影響で、県内の交通機関は二十日午前中が休止、県民の足は陸海空ともに終日まひ状態が続いた。高速道路は、瀬戸中央・高松自動車道が午後一時半ごろから全面通行止めとなった。また、高松や丸亀から京阪神、松山、高知などに向かう高速バスは午前九時ごろから運休した。

(四) 台風二十三号による県内の被害状況

綾川増水記抄

(一) 永正から天保の頃までのおもな大雨・水害(抜すい)

年 代

おもな大雨・水害

(蓮井武夫氏蔵の古記録による)

- 永正 十五(一五二一八) 六月大洪水、雷鳴、水一丈七尺
- 大永 三(一五二二三) 八月 大洪水、三度也
- 享祿 四(一五三三二) 六月六日 大洪水、風強く大雨有て川筋堤丸る切れ、池堤大損
- 天文 九(一五四〇) 六月 大地震、翌日大洪水二丈
- 元龜 二(一五七二) 四月七日 大雨降也
- 天正 十二(一五八四) 七月六日 大洪水也
- 元和 七(一六二二) 八月 大風雨、水深二丈八尺
- 明暦 二(一六五六) 八月十九日 大洪水二丈九尺
- 延宝 八(一六八〇) 五月五日 大雨植田押流す
- 天和 元(一六八二) 八月十六日 大風雨
- 元禄 元(一六八八) 五月朔日洪水 風吹大損
- 享保 七(一七二二) 七月五日 風雨にて水二丈五尺

風強く当村中人十人、牛百疋、馬二疋見えず、作物惣じて未成。家数四十五軒吹転じ申候、川筋堤丸切れになり、村方役目御免相成る者あり

(二) 明治・大正時代の大雨・洪水は次のようである。

- 寛保 元(一七四二) 七月 大風雨
- 延享 四(一七四七) 六月廿六・七日 大風雨にて川筋多く切込まれ二丈五尺大水也
- 天明 八(一七七八) 七月廿二日大風雨、立毛惣大損
- 天明 八(一七七八) 八月五日 大水にて川渡りできず嫁入損
- 寛政 四(一七九二) 八月六日 大風雨 水一丈八尺立毛押流し 御改済に相成
- 享和 元(一八〇二) 八月廿二日 大水、川筋大損
- 文化 七(一八一〇) 八月廿二日 大水、川筋大損
- 天保 九(一八三八) 五月五日より大雨降て大水、川堤切れる
- 明治 大正時代の大雨・洪水は次のようである。
- 明治 十七(一八八四) 八月二十五日 暴風雨

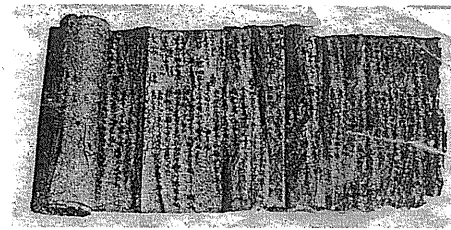
県内の被害状況

死者	全壊	半壊	浸水	床上	床下
一人	四八戸	四〇戸	四四三戸	四四三戸	一万三三三六戸

香川 平成16年12月9日調査 県危機管理課による

3 綾上町の水害

昭和五十三年発行の町誌によると、次のような水害がおきている。



蓮井家古記録 (山田下)

台風二十三号は、記録的な大雨などの猛威をふるい、大規模の被害をもたらした。香川県では台風通過後の十月二十一日に、水防本部を災害対策本部に変更し、住宅被害の多かった高松、坂出、さぬき、東かがわ各市と国分寺町に災害救助法を適用した。一人の貴い命が失われたのは、昭和五十一年(一九七六)の小豆島などで五〇人が犠牲になった台風十七号以来であった。県内の被害状況は次の通りである。

農林土木被害は約四五八億円、公共土木施設や農林水産関係、商工業や観光地にも大きな被害や影響があった。

二十二(一八八九) 八月十七日 風雨凶作、堤防五十間切、百十間潰れる

二十六(一八九三) 十月十四日 大洪水、水深十尺

二十九(一八九六) 七月三日 大雨午前九時川北橋落ちる。

八月三十日 大洪水、堤防諸所破壊後、則神社馬場百二十間、鳥居流れる

九月十一日 またまた大洪水

三十(一八九七) 九月二十七日、二十九日 連日大降雨

三十二(一八九九) 八月二十六日 大風雨

風強く木が折れ家が壊れる(最大風速五二哩) 粉所田万の小学校倒れる

山田地区では母屋倒壊一九三戸、その他半全倒壊四百棟、死者九、負傷五十、無害のものから寄付を集めたり、県費の官救をうける。九月三日重傷者治療のため軍医看守各一名来村、学校で診療、坂出病院長も来村。

四十三(一九一〇) 五月十日 大洪水、栗原橋、俊則橋長田橋流失、堤防諸所崩壊

大正 元(一九二二) 九月二十二日、五十年來の大暴風雨山田では堤防千六百間、池破損六〇か処、耕地百余町冠冠水前記三橋悉く流失

県史によると「阿讃山地から飛瀑の如く流出する奔流は、忽ち河川に溢れて、水勢いよいよ凶悪となった。濁流滔々、堤防を切つて氾濫するので、各所において警鐘を乱打し、或は太鼓を打つて急を告げた」とあり、水防活動の一端が伝えられている。

大正 七(一九一八) 九月十四日 大洪水

山田下天神の堤防数十間、ほか合わせて千八百間、溜池十数所欠潰、住家六戸流失、仲代から西道路は勿論水田一帯冠水、家屋浸水救助六十余名に及ぶ。羽床上では山崩れのため家屋倒壊圧死三、流失家屋七戸、半壊十二、里道大小十一か所、橋梁流失二か所、荒蕪地田十六町余歩、収獲予想五三〇六石に対し一五一八石減収、大正九年栗原橋は郡費で十月、山田・長田橋は県費で十二月新築された。

(三) 台風二十三号による大洪水と災害

平成十六年(二〇〇四) 十月二十日、台風二十三号による豪雨に見舞われた綾上町内は、各地で河川の氾濫や道路の決壊、土砂崩れなどが相次いでおり、町の機能はまひした。古老によると、「八六年前の大正七年の大洪水をはるかに越える、未曾有の豪雨、こんな洪水見たことがない。まさか、こんなこと

になるとは」と言われていた。

綾川では、羽床上の田中浦の左岸堤防の一部が決壊し、国道を川に変え、付近の民家に押し寄せ、住宅の中で流れ込み、床上・床下浸水となり、西分の梶羽から牛川に流れる梶羽川、羽床上の今滝川では上流からのおびただしい流木、木の枝などが橋脚にかかって氾濫し、被害をさらに大きくした。

ア 台風二十三号による被害・避難勧告等は、次の通りである。

台風二十三号の洪水による避難勧告等の状況

十月二十日(水)

午前 五時五十六分 暴風波浪警報発令

午前 九時四十九分 大雨洪水警報発令

午前 一〇時〇〇分 綾上町水防本部設置

午後 二時三〇分 綾上町災害対策本部設置

農村環境改善センター、B.G.海洋センター、粉所公民館、山田公民館、西分公民館、羽床上公民館、西分南小学校へ避難所開設

午後 四時一二分 綾川の増水により第五分団から田中浦地区の左岸堤防が危険な状態であるとの通報があった。

午後 四時二五分 綾川・梶羽川の増水に伴う危険区域(牛川、梶羽川、綾川、田中浦付近)の避難勧告

午後 四時五四分 綾川の田中浦付近、牛川の梶羽川の堤防決壊に伴う危険区域(梶羽川から西、田中浦から西)の住民に羽床上公民館への避難勧告

午後 四時五四分 高齢者コミュニティセンター自主避難

午後 六時〇四分 綾川の御山清付近の左岸堤防決壊により長田地区の住民にB.G.海洋センターへの避難勧告



被災状況

午後 六時二八分 綾川の増水に伴う危険地域の未則地区の住民に改善センターへの避難勧告

午後 八時〇〇分 八時現在の避難所避難状況一八五人

午後 八時一〇分 暴風波浪警報解除発令

午後 八時三〇分 綾南警察署より水質源機構香川用水総合事業所職員が午後五時三〇分頃、香川用水管理施設(綾川チェック)から綾上橋付近で行方不明と連絡があった。

午後 九時〇〇分 九時現在の各避難所避難状況一六五人

午後 九時二五分 大雨警報解除発令

午後 一〇時〇〇分 一〇時現在の各避難所避難状況一五二人

午後 一〇時三五分 洪水警報解除発令

午後 一一時三〇分 綾上町水防本部設置を解除する。

引き続き綾上町災害対策本部継続中

台風23号による町内の被災状況

《家屋被害》 (棟)

	全壊	半壊	一部損壊	計
住家	3	6	24	33
納屋	2	10	11	23
計	5	16	35	56

(戸)

床上浸水	床下浸水	計
58	176	234

《土木関係災害》

公共土木施設・林道(件)		土砂崩壊による被災路線	
道路	58	町道	21路線
河川	12	生活道	54箇所
林道	66	被災額…約53,000千円	
計	136		

被災額…約530,400千円

農地災害

551地区

被災額…約1,110,000千円

急傾斜地崩壊

29箇所

被災額…約150,000千円

《ごみ収集》

被災ごみ…329.15t

冷蔵庫・テレビ等 家電ごみ…138台

処理費用…約9,220千円

《公共施設被害》

- ふれあい運動公園法面崩壊
- 綾上中学校運動場法面崩壊
- 高鉢山キャンプ場管理棟基礎崩壊 等…

イ 台風二十三号による町内の降水量

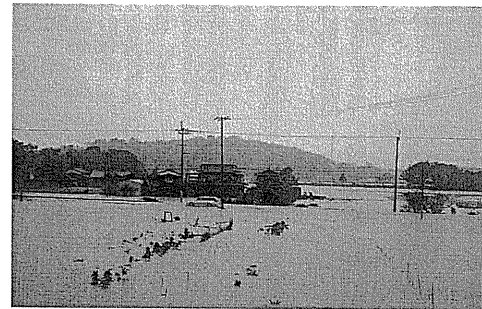
十九日午前一時～二十日午前〇時まで
での降水量

柏原	三 七 四 ミ メ ー ト ル	田万	三 三 一 八 ミ メ ー ト ル	長柄	二 九 九 ミ メ ー ト ル
田万では4時間に154mmの降雨があった					

ウ 台風二十三号による町内の被災状況は、次の通りである。

エ 消防団による災害支援活動

洪水警報発令とともに消防団では、各分団ごとに情報の収集、災害状況等の確認、被害を最小限に食いとめるために風雨の中、土のう搬送、独居老人の安全確認、避難勧告周知と誘導等献身的な支援活動と取り組んだ。



国道377号線の冠水 (羽床上川田附近)